

平成 26 年 度

# 事 業 報 告 書

附. (事業報告に関する附属明細書)

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

公益財団法人

木村看護教育振興財団

## 平成 26 年度 事業 報告 書

### 1 海外看護研修助成（公募事業）

#### －長期海外研修－

看護師・助産師・保健師の有資格者であって、一定の英語力を有するものを対象として、3週間の研修に要する研修費、滞在費、往復航空運賃等を全額助成する。平成 26 年度は以下のとおり実施した。

#### ① 研修先

アメリカ合衆国ミネソタ州ロチェスター メイヨークリニック

#### ② 研修者数

次の 7 名を派遣した。

青山聡子（独立行政法人国立国際医療研究センター病院）、伊藤尋美（国立大学法人旭川医科大学病院）、笠松由利（兵庫医科大学病院）、櫻田玲子（東北薬科大学病院）、清水陽一（独立行政法人国立がん研究センター中央病院）、中村美絵（社会福祉法人恩師財団済生会支部 福井県済生会病院）、三上仁美（国立大学法人東北大学病院）

#### ③ 研修期間

平成 26 年 9 月 13 日(土)から 10 月 5 日(日)までの 3 週間  
(別紙「事業報告に関する附属明細書」を参照)

### 2 看護研究助成関係（公募事業）

医療機関等で実際に看護等の業務に携わっている看護師・助産師・保健師の資格を有する者又はその者を含む研究グループを対象として、1 件当たり 100 万円を限度として助成する。

平成 26 年度は、次の者が代表研究者である 9 件の研究に対し助成した。

井上友里（代表研究者 東京女子医科大学）、岩田裕美（代表研究者 国立看護大学校）、緒方久美子（代表研究者 福岡大学医学部看護学科）、佐々木忍（代表研究者 国立大学法人広島大学病院）、高橋千晶（代表研究者 済生会山形済生病院）、高山良子（代表研究者 神戸市看護大学）、中尾友美（代表研究者 聖マリア学院大学/聖マリア病院）、橋本美香（代表研究者 医療法人東

和会第二東和会病院)、水野芳子(代表研究者 千葉県循環器病センター)  
(助成額 597 万円)

(別紙「事業報告に関する附属明細書」を参照)

### 3 専門看護師奨学金の助成(公募事業)

看護系大学大学院専門看護師教育課程 2 年次進級予定者に対して、1 件当たり年額 60 万円の助成を行う。

平成 26 年度は次の 11 名に対して助成を行った。

大内暁子(日本赤十字看護大学大学院)、金山直美(大阪府立大学大学院)、小原由紀子(兵庫県立大学大学院)、高田 鼓(兵庫県立大学大学院)、田代祐子(日本赤十字看護大学大学院)、多田真太郎(東京医科歯科大学大学院)、寺尾敦(長崎大学大学院)、橋本美千代(広島大学大学院)、松本真理子(大阪府立大学大学院)、宮岡里衣(聖路加国際大学大学院)、山内 文(大阪府立大学大学院)

(助成額 660 万円)

(別紙「事業報告に関する附属明細書」を参照)

### 4 看護に関する講演会の開催

#### (1) 島根県における開催

島根県看護協会の後援と協力を得て、次の通り第 67 回講演会を開催した。

- ① 日 時 平成 26 年 10 月 18 日(土) 13 時 30 分～16 時
- ② 会 場 島根県看護協会 島根県看護研修センター
- ③ 講 師 秋山正子氏  
(株)ケアーズ 白十字訪問看護ステーション統括所長  
暮らしの保健室室長
- ④ 演 題 「在宅ケアのつながる力～どんな時でも命は輝く～」
- ⑤ 参加者 177 名

#### (2) 東京における開催

次の通り、第 68 回講演会として開催した。

- ① 日 時 平成 26 年 11 月 8 日(土) 13 時 30 分～17 時 20 分。
- ② 会 場 東京都千代田区霞が関 新霞が関ビル灘尾ホール
- ③ 演 題 「未来を拓く 看護の力 -在宅医療・看護の推進と看護教育」
- ④ 内 容

- ア 基調講演 1 大島浩子氏 国立長寿医療研究センター長寿・看護研究室長  
「平成 24 年度在宅医療連携拠点事業による在宅医療介護連携  
推進の成果や課題」
- イ 基調講演 2 ミーガン・フリマー氏 メイヨークリニック看護教育スペシャ  
リスト  
「Meeting the Institute of Medicine Future of Nursing  
Recommendations」
- ウ パネルディスカッション  
「在宅医療・看護の推進に向けた取組みと看護教育の役割を考える」  
ファシリテーター  
山田雅子氏 聖路加国際大学教授  
パネリスト  
平原優美氏 公益財団法人日本訪問看護財団 あすか山訪問看護ステー  
ション 統括所長  
松永敏子氏 千賀県看護協会前会長  
長江弘子氏 千葉大学大学院看護学研究科 特任教授  
三輪恭子氏 淀川キリスト教病院地域医療連携センター療養支援課長  
アンバー・スティッツ氏  
メイヨークリニック上級実践看護師・成人看護 CNS

基調講演、パネルディスカッションとも、詳細かつ丁寧な事例報告等により  
在宅医療・看護に関わる意欲的な取組みが紹介された。

なお、その詳細を「木村看護教育振興財団 平成 26 年度東京講演会の記録」  
としてまとめた。

⑤ 参加者 398 名

## 5 新たな研修助成の創設に向けた調査

### (1) 高度な看護スキルに係る研修助成の調査

- 本調査は、高度な看護スキルに対する習得ニーズがあり、そのニーズに応える  
専門的な研修が実施されている場合において、その研修を希望する看護職者  
に対する助成が当財団の理念に合うこと、財務等の条件に適合すること等につ  
いて検討し、適切と認められる場合に理事会及び評議員会の議を経て新事業と  
して取り組むことを目的として実施している。
- 上述の目的の下に、財団事務局は、平成 25 年度及び 26 年度の 2 力年間に

病院で勤務する 9 領域 17 名の専門看護師等 21 名から意見を聞き、ニーズの存在、然るべき研修の存在等を検討してきている。

27 年 3 月末現在の検討状況の概括的整理は以下のとおりである。

まず、専門看護師の方々は、①所属病院・大学等でその専門性に相応しい高度かつ専門的な役割を果たしていること、また、②独自にテーマを持って調査・研究等を行っているが、③多数の他者とともにも自らも受講者となるような一般にみられる研修へのニーズは認められなかった。

その中で、次のようなニーズを確認した。

- ① 死に直面した患者とその家族に対する高度なケアのために既に一定レベルのスキルを有する看護師を対象として平成 26 年度から開始されている専門的看護ケアプログラムによる研修への資金的支援
- ② チーム医療を高度に実践していく上での参考とするために、優れた海外医療機関における医師・看護師・その他職種による意思決定過程や連携状況、それに関連する情報共有のためのソフト・ハードの仕組みと運用等を実際に観察し学ぶこと

このうち、①は緩和ケア推進を目的とする公的法人の取組みであるが、研修の中心ツールである専門的看護プログラムや研修の詳細は開示されていない。このため、当財団における検討の前提として、同法人は、当財団に対し研修のプログラム等の開示を行うことについて検討しているところである。

また、②については、ニーズの内容を明確にすることとしている。

なお、専門コンサルに依頼して、新たに海外で研修を行う場合に候補として考えられる海外医療機関のリストアップ調査を行っている。

- 当財団としては、当面、①について、その開示をまって助成対象としての条件が備わっているかなど専門的な検討を行う。

(注) 意見を伺った専門看護師の看護領域別人数

がん看護 4 名、精神看護 2 名、地域看護 3 名、老人看護 1 名、小児看護 1 名、母性看護 1 名、慢性疾患 1 名、急性・重症 1 名、家族支援 2 名

(2) 訪問看護に必要な看護スキルに係る研修助成の調査

- 本調査は、在宅医療・訪問看護に関する看護スキル習得のニーズに応える専門的な研修が実施されている場合において、その研修を希望する看護職者に対する助成が当財団の理念に合うこと、財務等の条件に適合すること等について検討し、適切と認められる場合に理事会及び評議員会の議を経て新事業として取り組むことを目的として実施している。

- 本調査は、平成 24 年度（9 月以降）、25 年度、26 年度と 2 年 6 か月間に 41 件 79 名の方々から、在宅医療・訪問看護の実態や課題、各種支援策について説明を受け意見交換等を行い、習得ニーズの存在、然るべき研修の存在等を検討してきている。

主な訪問先として、厚生労働省、東京都医療政策及び介護政策担当部局、日本看護協会、日本訪問看護財団、首都圏 4 都県看護協会、全国訪問看護事業協会において全国的な実態と注目すべき取り組み事例、支援策を聞くとともに、東京大学大学院、京都大学大学院及び同附属病院、国立長寿医療研究センター、千葉大学大学院、聖路加国際大学及び同病院、淀川キリスト教病院、山形県鶴岡地区医師会、東京都板橋区医師会、16 訪問看護ステーション、有識者 7 名、セントケア・ホールディング株式会社等において、在宅医療・訪問看護に関する取り組みの実態と課題を聞いてきている。

なお、笹川記念保健協力財団からも、昨年度から開始された訪問看護ステーションの起業をめざす看護師の支援研修について、その狙いと課題について聞いている。

これらを通じて、以下のことが分かった。

- ① 全国で約 7,500 に上る訪問看護ステーションの平均的規模は小さく(4.5 人/所)、事業面でも経営面でも余裕がないことから所属職員を専門的研修に出す余裕がある事業体は極めて少数であること、このため、自治体によって一般施策に上乗せする財政支援により研修の機会を設ける取り組みが行われていること
- ② 研修ニーズは体験型から単独で訪問看護ができることを目指すものまで多様であること、その幅広い研修ニーズに対応できる訪問看護事業体は総じて看護師 10 名を超える整った体制を備え経営的にも余裕がある事業体であること、
- ③ 在宅医療・訪問看護の推進という観点からは、訪問看護サービスの支援とともに、急性期病院と訪問看護事業体等との連携の下での円滑な在宅療養移行に関する支援も重要であること

- 在宅医療・訪問看護については、幅広い取組みが進められており、今後、①②に記した問題等も改善されていくことも考えられるが、27年3月末現在、当財団が助成する場合の条件を備えていると認められる研修プログラムや研修実施例は見られない。従って、訪問看護に関する研修ニーズについて、引き続き動向を見ながら取り組んでいく。

なお、当財団として、在宅医療・訪問看護について、既に、看護研究助成、専門看護師奨学金助成、看護に関する講演会の3事業において、積極的に対応してきており、今後も同様に取り組んでいく。

## 6 刊行物の発行等

### ① 海外看護研修レポート 2013

関係団体・機関における活用を広げるため、発行部数を平成25年度の500部から950部に増加し、全国の看護系大学及び主要な病院に提供した。

### ② 看護研究集録 21

看護研究集録についても、平成25年度の300部から800部に増やし、全国の看護系大学及び主要な病院に配布した。

### ③ 「平成26年度 東京講演会の記録」

平成25年度の当財団創設22周年記念講演会に続き、26年11月の講演会も大変に好評であり、終了後間もなくより、講演内容や説明に用いられた資料等についての問い合わせが多かった。

このため、講演会の詳細を記録として保存し全国の関係大学・病院等での活用以供することとし、講演者及びパネルディスカッション参加者並びにメイヨークリニックの協力を得て、講演、プレゼンテーション、関係資料を登載した「東京講演会の記録」を作成した。この講演録は全ての看護系大学と主要病院、看護関係者等に近く配布する予定である。

## 7 助成金贈呈式等及び医療・看護関係者の集い等

### (1) 平成26年度助成金贈呈式

平成26年6月2日(月)、看護研究助成対象者9件及び専門看護師奨学金助成対象者11名に対して、理事、評議員及び選考委員が出席し霞が関ビル35階で開催した。

### (2) 海外看護研修オリエンテーション及び研修報告会

①研修オリエンテーション

平成 26 年 6 月 30 日（月）、26 年度研修生 7 名に対して、アドバイザーとして平成 25 年度研修生 1 名も参加して霞が関ビル 35 階で実施した。

③ 研修報告会

平成 26 年 12 月 18 日（木）、霞が関ビル 35 階で理事及び選考委員の出席も得て開催した。

(3) 米国看護師と我が国看護師との交流に関する支援

平成 26 年 10 月 28 日（火）から 11 月 10 日（月）まで我が国に滞在したメイヨークリニックの上級看護師 3 名と我が国の看護系大学やナショナルセンター、病院等が交流するに当たり、当財団は、事前に交流に関する日程調整等を行うとともに、自らも米国看護師との意見交換や視察の支援等を行った。

(4) 国内外の看護関係者の集いの開催

平成 26 年 11 月 8 日（土）夜、当財団は、東京千代田区の霞が関ビル 35 階東海大学校友会館において、第 68 回講演会の開催に引き続き、パーティを開催した。

パーティでは、木村代表理事の挨拶に続き、厚生労働省医政局長、日本看護協会会長、日本訪問看護財団理事長、全国訪問看護事業協会、メイヨークリニックのミーガン・フリマー氏の挨拶が寄せられ、関係機関・団体やこれまでの当財団助成対象者も多数来場され 178 名をかぞえる盛会となった。

会場は、関係機関の方々、メイヨークリニックの方々、メイヨークリニック等でかつて研修した助成対象者が活発に交流し、我が国と米国の医療・看護に関する情報交換もなされるなど有意義な集いの場となった。

(5) 平成 27 年度の助成事業に対する公募及び応募者への対応

① 当財団の 3 助成事業の公募に関する周知を深めるため、公募開始を 1 か月早め、公募期間を平成 26 年 10 月 20 日（月）から平成 27 年 1 月 23 日（金）までとした。

② 3 助成事業の公募のお知らせは、財団ホームページに掲示するとともに、出版社の好意により看護専門誌 10 誌にも公募のお知らせの掲載を行った。

以上



平成 26 年 度

## 事業報告に関する附属明細書

- 1 海外看護研修助成者名簿
- 2 看護研究助成者名簿
- 3 専門看護師奨学金助成者名簿

平成26年度 海外看護研修助成対象者名簿

メイヨークリニック(7名)

敬称略 五十音順

氏名	勤務先	職名
あおやま きとこ 青山 聡子	国立国際医療研究センター	看護師
いとう ひろみ 伊藤 尋美	旭川医科大学病院	看護師
かきたつ ゆり 笠松 由利	兵庫医科大学病院	現任教育専任師長
きらた ねいこ 櫻田 玲子	東北薬科大学病院	看護師
しみず よういち 清水 陽一	国立がん研究センター中央病院	看護師
なかむら みよ 中村 美絵	福井県済生会病院	看護師・助産師
みかみ ひとみ 三上 仁美	東北大学病院	看護師・助産師

平成26年度 看護研究助成対象者名簿

敬称略 五十音順  
単位:万円

代表研究者 氏名	勤務先	職名	研究課題	助成額	申込額
井上 友里	東京女子医科大学看護学部	助教	母乳育児が継続するための退院後の看護介入の効果:ランダム化比較試験	74	100
岩田 裕美	国立看護大学校	講師	母親のメンタルヘルスと日本版IFEEL Pictures(JIFP)反応 —早期母子関係性支援活用のための基礎的研究—	55	75
緒方 久美子	福岡大学医学部看護学科	准教授	ICUに緊急入室した人工呼吸器装着患者の情報ニーズに関する研究	55	65
笹本 忍	広島大学病院	看護師	小児がんの子どもと家族への看護支援に関する看護士の教育プログラムの開発	65	100
高橋 幸富	済生会 山形済生病院	看護部長	新卒看護師の基礎実践能力に影響を及ぼす要因 —基礎教育・継続教育・職場環境等との関連—	73	100
高山 良子	神戸市看護大学	講師 がん看護CNS	がん看護専門看護師によるがん看護外来に関する成果研究 —患者・家族と多職種医療従事者への影響—	80	100
中尾 友美	聖マリア学院大学/聖マリア病院	講師 慢性疾患看護CNS	慢性疾患看護CNSの実践知を活用した早期糖尿病性腎症患者への 看護介入プログラムの検討	55	70
藤本 桑香	医療法人東和会 第二東和会病院	病棟部長	ウレタンフォームマットレスのへたりと交換指標の作成	70	90
水野 秀子	千葉県循環器病センター	主任看護師	小児循環器疾患看護の専門性と教育ニーズの明確化 —看護カイドラインを用いた研修を通して—	70	100
合 計				597	800

平成26年度 専門看護師奨学金助成対象者名簿

敬称略 五十音順

氏名	大学院名	専門分野
大内 曉子	日本赤十字看護大学大学院	小児看護
金山 直美	大阪府立大学大学院	慢性疾患看護
小原 由紀子	兵庫県立大学大学院	がん看護
高田 鼓	兵庫県立大学大学院	母性看護
田代 祐子	日本赤十字看護大学大学院	小児看護
多田 真太郎	東京医科歯科大学大学院	急性・重症患者看護
寺尾 敷	長崎大学大学院	がん看護
橋本 美子代	広島大学大学院	がん看護
松本 真理子	大阪府立大学大学院	精神看護
菅岡 里衣	聖路加看護大学大学院	急性・重症患者看護
山内 文	大阪府立大学大学院	家族支援